

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新入文学(12)
発行日	2015-12-25

〔彙報〕

平成二十六年 度 大学院文学研究科

◆ 学位論文題目一覧

博士學位論文

● 博士學位論文（論文博士）

学位記番号	氏 名	博 士 論 文 題 目
博（文） 乙第6号	村上 淳子	「主婦」の誕生

修士學位論文

● 日本文化専攻修士課程

氏 名	修 士 論 文 題 目
小川ゆう紀	韓国入学習者の日本語教師に対するゼリーフ ―大学生への質問紙調査からの考察―

● 英米文化専攻修士課程

氏 名	修 士 論 文 題 目
竹田 麗華	知識の保存と継承としての「書物」 ↳ 電子化によるメディアの再編
堺 達也	Adverbs in Present Subjunctives

◆授業科目及び担当者

●日本文化専攻博士(後期)課程

授業科目		担当教員
比較文学特殊研究Ⅰ	テレングト アイトル教授	
比較文学特殊研究Ⅱ	テレングト アイトル教授	
比較文学特殊研究Ⅲ	テレングト アイトル教授	
日本語文化特殊研究Ⅰ	中川かず子教授	
日本語文化特殊研究Ⅱ	中川かず子教授	
日本語文化特殊研究Ⅲ	中川かず子教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅰ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅱ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅲ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳教授	
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳教授	
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳教授	
アイヌ文化論特殊研究Ⅰ	手塚 薫教授	
アイヌ文化論特殊研究Ⅱ	手塚 薫教授	
アイヌ文化論特殊研究Ⅲ	手塚 薫教授	
アジア文化論特殊研究Ⅰ	須田一弘教授	
アジア文化論特殊研究Ⅱ	須田一弘教授	
アジア文化論特殊研究Ⅲ	須田一弘教授	

●英米文化専攻博士(後期)課程

授業科目		担当教員
英米歴史文化特殊研究Ⅰ	常見信代教授	
英米歴史文化特殊研究Ⅱ	常見信代教授	
英米歴史文化特殊研究Ⅲ	常見信代教授	
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ教授	
英米言語文化特殊研究Ⅰ	米坂スザンヌ教授	
英米言語文化特殊研究Ⅱ	米坂スザンヌ教授	
英米言語文化特殊研究Ⅲ	米坂スザンヌ教授	
英米思想文化特殊研究Ⅰ	大森一輝教授	
英米思想文化特殊研究Ⅱ	大森一輝教授	
英米思想文化特殊研究Ⅲ	大森一輝教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏真教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏真教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏真教授	
西洋思想文化特殊研究Ⅰ	川上武志教授	
西洋思想文化特殊研究Ⅱ	川上武志教授	
西洋思想文化特殊研究Ⅲ	川上武志教授	

● 日本文化専攻修士課程

授業科目		担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	井野葉子 准教授	
日本文学特殊講義演習ⅠA	井野葉子 准教授	
日本文学特殊講義演習ⅠB	井野葉子 准教授	
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾教授	
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中 綾教授	
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中 綾教授	
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春 講師	
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト アイトル教授	
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト アイトル教授	
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト アイトル教授	
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授	
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順 教授	
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順 教授	
表象文化論特殊講義	大石和久 教授	
表象文化論特殊講義演習A	大石和久 教授	
表象文化論特殊講義演習B	大石和久 教授	
日本文語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子 教授	
日本文語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子 教授	
日本文語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子 教授	
日本文語文化特殊講義Ⅱ	菅 泰雄 教授	

授業科目		担当教員
日本文語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次 教授	
日本文語文化特殊講義演習ⅢA	徳永良次 教授	
日本文語文化特殊講義演習ⅢB	徳永良次 教授	
日本文語文化特殊講義Ⅳ	門脇誠一 講師	
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋 教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋 教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋 教授	
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡 誠教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡 誠教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡 誠教授	
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司 淳教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司 淳教授	
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司 淳教授	
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重 講師	
アイヌ文化論特殊講義	手塚 薫教授	
アイヌ文化論特殊講義演習A	手塚 薫教授	
アイヌ文化論特殊講義演習B	手塚 薫教授	
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田 弘教授	
アジア文化論特殊講義演習ⅠA	須田 弘教授	
アジア文化論特殊講義演習ⅠB	須田 弘教授	
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李 俊鎬 講師	

●英米文化専攻修士課程

授業科目		担当教員
英米社会文化特殊講義Ⅰ	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊講義ⅠA 演習	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊講義ⅠB 演習	岩崎まさみ教授	
英米歴史文化特殊講義Ⅰ	常見信代教授	
英米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	常見信代教授	
英米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	常見信代教授	
英米歴史文化特殊講義Ⅱ	大森一輝教授	
英米歴史文化特殊講義ⅡA 演習	大森一輝教授	
英米歴史文化特殊講義ⅡB 演習	大森一輝教授	
欧米歴史文化特殊講義Ⅰ	仲松優子准教授	
欧米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	仲松優子准教授	
欧米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	仲松優子准教授	
英米思想文化特殊講義Ⅰ	柴田 崇教授	
英米思想文化特殊講義ⅠA 演習	柴田 崇教授	
英米思想文化特殊講義ⅠB 演習	柴田 崇教授	
英米思想文化特殊講義Ⅱ	川上武志教授	
英米思想文化特殊講義ⅡA 演習	川上武志教授	
英米思想文化特殊講義ⅡB 演習	川上武志教授	
英米言語文化特殊講義Ⅰ	上野誠治教授	
英米言語文化特殊講義ⅠA 演習	上野誠治教授	
英米言語文化特殊講義ⅠB 演習	上野誠治教授	

授業科目		担当教員
英米言語文化特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ教授	
英米言語文化特殊講義ⅡA 演習	米坂スザンヌ教授	
英米言語文化特殊講義ⅡB 演習	米坂スザンヌ教授	
英米言語文化特殊講義Ⅲ	田中洋也准教授	
英米言語文化特殊講義ⅢA 演習	田中洋也准教授	
英米言語文化特殊講義ⅢB 演習	田中洋也准教授	
欧米思想文化特殊講義Ⅰ	安酸敏眞教授	
欧米思想文化特殊講義ⅠA 演習	安酸敏眞教授	
欧米思想文化特殊講義ⅠB 演習	安酸敏眞教授	
欧米思想文化特殊講義Ⅱ	佐藤貴史准教授	
欧米思想文化特殊講義ⅡA 演習	佐藤貴史准教授	
欧米思想文化特殊講義ⅡB 演習	佐藤貴史准教授	

編集後記

●『年報 新人文文学』第12号をお届けします。本号は、論文四本、資料一本、研究ノート一本と多彩で貴重な論考が集まりました。執筆いただいた皆様、また、査読にご協力いただいた皆様に編集委員として心より御礼申し上げます。

●本号の巻頭言「新人文文学と人類学——われわれは本当にサビエンスか?——」を執筆してくださったのは、本研究所研究科長の須田一弘氏でした。その中で、氏は人類学を本研究所の理念である「新人文主義」の視点から捉え直し、ホモ・サビエンスと自ら名の人間は本当に「サビエンス」で、つまり賢くあり得ているのかという問いを、いささか皮肉めいたかたで投げかけておられます。従来の人間中心主義的人文文学を超越する人文文学という逆説がこめられた「新人文主義」。そのような理念を掲げる本研究所の年報の巻頭言に、氏のエッセイはまさしくふさわしいものでした。この「新人文主義」をめぐっては過去、数度シンポジウムが開催されたり、またそれをめぐる論考が今号のように巻頭言で本誌に掲載されたりしております。このようにして「新人文主義」の理念は次第に、われわれ文学研究科に所属する者たちの間に行き渡りつつ、その精神にしみこみながら、それぞれの研究テーマに向かい合うときの共通の学問的身構えのようなものを形成しつつあるのではないかと感じています。

●常見信代氏には、ご退職の年に貴重な資料と共に論文、「アダムナーンの『聖コロンバ伝』を読む——史料とその問題点——」をご執筆いただきました。ブリテン諸島現地での調査など精力的な研究活動の成果である貴重な論考を本号にお寄せいただいたことに、改めて感謝申し上げます。若い研究者が目指す目標として今後も活躍されることを期待しております。また、今後とも私たちをご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

●追塩千尋氏、柴田崇氏には継続して高水準の論文を執筆いただき、『年報 新人文文学』の主幹を成す存在となっております。今後とも引き続き、研究の成果をお寄せいただければ、編集を担当するものとして大変、心強く思います。

●今号には、大学院修了生でもある秋元裕子氏、竹ヶ原康弘氏には資料、論文をそれぞれご投稿いただきました。また、博士課程の塩濱健児氏には研究ノートをご投稿いただきました。『年報 新人文文学』が、このように大学院文学研究科の教員、同窓生、学生の研究成果を共有する場として存続できていることは、研究科に縁を持つ誰もが喜びに感じることはないでしょうか。

●平成二十七年度は、文学研究科のカリキュラムが改訂され、研究科にとって大きな意味を持つ年でした。これまでの専攻の独自性を維持しながらも、学生が柔軟な科目履修ができるように日本文化、英米文化の両専攻とも言語・思想文化科目と歴史・環境文化科目に大別し、科目名称の統合、整理を行いました。このカリキュラム改訂の成果も将来の『年報 新人文文学』で確認できる日が来ることでしょう。

(大石和久・田中洋也)

『年報 新人文文学』投稿規定

一、『年報 新人文文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。

二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。

三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。

①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。

②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。

③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。

④その他、編集委員会が必要と認めたもの。

四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文文学』編集委員会